



報道関係者各位

株式会社コンピュータ・ニュース社
〒113-0033 東京都文京区本郷 3-25-1
TEL 03-3818-2661 FAX 03-3818-3006

本件に関するお問い合わせは下記をお願いします。

BCN総研 谷古宇(ヤコウ)

<http://computernews.com/marketview>

CD-R/RWの販売量がMOの約2倍に拡大

コンピュータの週刊専門紙である「BCN」(BUSINESSコンピュータニュース)を発行する株式会社コンピュータ・ニュース社は、東名阪のパソコン大手販売会社9社(エイデン、グッドウィル、コンプ100満ボルト、コンプマート、CSKエレクトロニクス=T・ZONE、スタンバイ、ソフマップ、九十九電機、ニノミヤ=50音順)284店舗の日次販売データをデイリーで収集し配信するBCNランキング(システム名:BCN Market View)を公表しています。このデータをもとに、BCNの市場調査部門であるBCN総研ではPCリテール市場の動向分析を行っています。

株式会社コンピュータ・ニュース社(本社・東京都文京区、社長 奥田喜久男)の市場調査部門であるBCN総研は、2000年1月の店頭における大容量リムーバブル記憶装置の販売構成比率でCD-R/RWが60%に迫る勢いにあり、MOの約2倍の販売量になったことを発表した(図1)。CD-ROMドライブでも読み出せる互換性の高さ、使い捨てが可能なメディア価格の安価さがCD-R/RWの人気を支える要因となっている。

99年4月までは大容量リムーバブル記憶装置に占めるMOの販売構成比率がCD-R/RWを上回っていた。しかし、5月以降、MOのシェアは徐々に下降し、代わって、CD-R/RWの販売比率が拡大、2000年1月の時点では、MOの2倍近い158.2%となった。

BCN総研がウェブ上で行った大容量リムーバブル記憶装置に関するユーザーアンケート(有効回答:802件、調査期間:2000年1月20日~23日)でも、CD-R/RWの所有率は49.1%にまで達し、MOの比率を8.3ポイント上回った。こうみると、CD-R/RWが大容量リムーバブル記憶装置の主力となっていることがうかがえる。

CD-RとCD-RW所有者があげる購入理由では、「メディア価格が安いこと」が最も多く、CD-Rでは32.5%、CD-RWでも35.5%と3割を超えるユーザーがあげている。現在CD-Rメディアは1枚100円を切り、使い捨てが可能な価格となっている。このため、ランニングコストが他のドライブよりも安いということが、CD-R、CD-RWの最大の魅力といえる。

利用用途では、「音楽データの保存」の比率が他のドライブに比べて高いのが特徴的だ。CD-R、CD-RWメディアに保存した音楽データは、マルチリード対応の音楽CDプレーヤーであればデータの再生が可能であり、ユーザーからは「MDやカセットテープの代用品としてCD-R/RWを利用している」との声が多くあがっている。音楽プレーヤーとの互換性の高さがCD-R/RWの需要を押し上げているものとみられる。



大容量リムーバブル記憶装置の所有（複数回答）

